

主体的に「書くこと」に取り組む児童の育成

～学習意欲を高める題材の設定とICTの効果的な活用を通して～

石垣市立真喜良小学校
教諭 金城 歩

I テーマ設定の理由

Society5.0という新たな時代を迎えようとしている現代社会は、グローバル化やICT化が急速に発展し、私たちの暮らしや価値観などが大きく様変わりしている。そのような変化の中、一人一人が自己を確立しつつ、他者と協働して課題を解決し、新たな価値を創造する力など、これからの人生を主体的に切り拓く力を身に付けることが求められている。「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」（以下、「解説国語編」）の目標の中には、「(2)日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う」と示されており、変化の激しい社会において、国語科の担う役割は大きいと考える。また、中教審答申『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（令和3年1月）（以下「令和3年答申」）では、「これからの学校教育を支える基盤的なツールとして、ICTの活用が必要不可欠なものであり、これまでの実践とICTとを最適に組み合わせしていく」と明記されている。

本校の令和5年度全国学力・学習状況調査では、国語の平均正答率が県より低く、特に「書くこと」の領域において県平均より10.7ポイント下回り、大きな差が見られた。また、本学級の児童においても「国語は難しい」「どう書いていいかわからない」等の声が聞こえ、国語や特に「書くこと」に苦手意識を持った子が多くいる。その要因として、題材を自分事として捉えていないため、書くことに対して意欲が低いこと、書くための材料や情報収集が十分でないこと、基本の文章構成を理解していないことが理由ではないかと考えた。

これまでの実践を振り返ると、「書くこと」の指導において、主語述語等の基本的な文章を書く指導や文章構成の指導、交流活動の工夫に取り組んできたが、題材の設定に課題があり、進んで書きたいと思う動機付けが弱く、学習意欲を高めることが出来なかった。「書くこと」の活動では、書くための材料や情報収集の際に時間がかかる児童は、何を書いていいのか定まらない中、書く活動に入り、結局書くことが出来ない。また、基本の文章構成の理解が低い児童は、書くことは決まっても文章をどうまとめていいかわからない等、自分の学習の進度に合っていないまま授業が進んでしまっていた。そのため児童は、書くことに対する苦手意識を持ったのではないかと考える。

そこで、本研究では学習意欲を高める題材の設定に重点を置く。児童にとって身近な書きやすい題材を選択・決定するまでの過程や、相手や目的意識を持たせる授業の工夫をすることで、児童の「考えてみたい」「書いてみたい」という意欲につなげる。「書くこと」の活動においては、書くための材料・情報収集の場面で、全員がお互いの考えを見ることができるようしたり、文章を構成する場面では、何度も入れ替えたりできるようにツールとして活用するなど、ICTの良さを効果的に活用する。そうして一人一人の学習の進度に合った支援に取り組むことで、書くことが苦手だと感じている児童も、自分の考えや気持ちを進んで書くことができるであろうと考える。以上のことから、題材の設定の工夫とICTを効果的に活用することを通して、主体的に書く児童が育成できるのではないかと考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説

仮説 「書くこと」において、題材の設定に重点を置き、ICTを効果的に活用した一人一人の学習の進度に合った支援をすることによって、主体的に取り組む児童が育つであろう。

Ⅲ 研究内容

1 主体的に「書くこと」に取り組む児童とは

(1) 国語科における「書くこと」について

「解説国語編」国語科の内容は、[知識及び技能]及び[思考力、判断力、表現力等]から構成されている。[思考力、判断力、表現力等]の内容のうち、「B書くこと」の指導事項は8つの学習過程で構成されている(表1)。

「書くこと」の授業改善を図るために、花田修一(1999)は、①「書くことは考えること」という立場を、繰り返し生徒に語りかけ、体験的に自覚させる②「苦しかったけど書いてよかった」という実感を味わわせる③「なるほどこう書けばよいのか」という新しい発見を積み重ねていくの3つを挙げている。

児童に、「最後まで書くことができ嬉しい」という達成感を味わわせることや、書くことで見つける新しい発見を積み重ねることが重要だと考える。

(2) 「書くこと」の大切さについて

文化審議会答申「これからの時代に求められる国語力について(平成16年2月)」において、「小学校段階では、『聞く』『話す』『読む』『書く』のうち、『読む』『書く』が確実に身に付くようにしていくことが大切である。これは、いわゆる『読み・書き』の徹底を図ることが重要であること、情緒力を身に付けるには『読む』ことが基本になること、論理的思考力の育成は『書く』ことが中心になると考えられることによる。今以上に、『読む・書く』の定着を図ることが重要である。さらに、『書く』ことは、考えを整理し、考えることそのものの鍛錬にもなる。したがって、まとまった話をするためにも書くことは大切である。」と述べており、指導の重点は『読む・書く』にあることが示されている。小林康宏(2022)は、「書くことにより、考えを練り上げることを通して、課題を解決するための考える力を鍛えることができる」と述べている。つまり、書くことは思考そのものであり、書く力は考える力を伸ばすための有効な活動であり、重要だといえる。

(3) 主体的な学びについて

学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進が打ち出された。その具体的な内容について、国立教育政策研究所から「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」それぞれが実現できているかの三つの視点に立った授業改善を行うことが示されている(表2)。教科等の特質を踏まえ、具体的な学習内容や児童の状況等に応じて、これらの視点の具体的な内容を手掛かりに、質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにすることが求められている。そのためには、教師主導で型にはめた学習活動をするのではなく、児童の必要感からの学習法や思考方法を取り入れる必要がある。そこで本研究では、学習に興味・関心を持ち、見通しを持って最後まで粘り強く書く活動に取り組み、振り返り、次の目標を持てる児童を「主体的に書くことができる児童」と捉え、研究を進めていく。

表1 『B書くこと』の指導事項

	学習過程	
書くこと	題材の設定	書くことを見付けたり、相手や目的、意図に応じて書くことを選んだりするとともに、必要な材料を整理し、伝えたいことを明確にすることを示している。
	情報の収集	
	内容の検討	
	構成の検討	自分の思いや考えが明確になるように文章の構成を考えることを示している。
	考えの形成	自分の考えを明確にし、書き表し方を工夫することを示している。
	記述	
	推敲	記述した文章を読み返し、構成や書き表し方などに着目して文や文章を整えることを示している。
	共有	文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けることを示している。

「小学校学習指導要領解説 国語編」より

2 学習意欲を高める題材の設定

(1) 学習意欲を高める重要性について

中教審答申「初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について」（平成15年10月）の「子どもたちに求められる学力についての基本的な考え方」で、学習意欲を高めることが、確かな学力をはぐくむ上でとりわけ重要な視点であると示している。櫻井茂男(2017)は、「アクティブラーニング(課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び)を実現させるための源にあるのは自ら学ぶ意欲にあり、大まかに捉えるならば、アクティブラーニングは自ら学ぶ意欲に基づく学習行動ということができると述べている。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が求められている今、学習意欲を高めることは、大変重要なことであると考えられる。

(2) 題材の設定について

「解説国語編」では、「題材の設定、情報の収集、内容の検討」について、(表3)のように示している。小林康宏(2022)は、「書くことの学習過程のうち、題材の設定、情報の収集、内容の検討という材料集めの段階が、特に重要だ」と述べている。「書く側にとっても、どれを選ぶか迷うくらいのたくさんのおもしろい材料があれば、どんどん書きたくなるし、読んで欲しくなる。材料集めの段階の学習は準備を念入りにして、たっぷりと情報を手に入れられるようにすること」とある。また、水戸部修治(2018)は、「文章を書く際には、題材をじっくり選ぶことができるようにする必要がある」と述べ、題材選びに時間をかける重要性を示している。児童が、題材を自分事として捉え、興味関心を持って学習に取り組むためにも題材選びの時間をしっかり確保し、十分な情報を集められるようにすることは「書くこと」の学習過程において、とても重要であると考えられる。

3 ICTの効果的な活用

(1) ICT活用について

国のGIGAスクール構想による一人一台端末、デジタル教科書、様々なアプリケーションなど、ICT環境は急速に変化している。「令和3年答申」において、『令和の日本型学校教育』を構築し、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びを実現するためには、学校教育の基盤的なツールとして、ICTは必要不可欠なものであるとし、「これまでの実践とICTとを最適に組み合わせること」と示している。また、文部科学省「教育の情報化に関する手引—追補版—(令和2年6月)」では、「各教科等において育成すべき資質・能力を見据えた上で、各教科等の

表2 授業改善の三つの視点

<p><u>学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」</u>が実現できているかという視点。</p>
<p>子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、<u>自己の考えを広げ深める「対話的な学び」</u>が実現できているかという視点。</p>
<p>習得・活用・探求という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、<u>知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりするところに向かう「深い学び」</u>が実現できているかという視点。</p>

文部科学省 国立教育政策研究所より 強調文字は金城

3 学年別の指導事項内容

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
<p>内容の構成 題材の設定 情報の収集</p>	<p>ア 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。</p>	<p>ア 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。</p>	<p>ア 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。</p>

「小学校学習指導要領解説 国語編」より

特質やICTを活用する利点などを踏まえて、ICTを活用する場面と活用しない場面を効果的に組み合わせ、学習場面に応じたICTの活用を10の分類例に分けている(図1)。単にICT機器を指導に取り入れれば、教科等の指導が充実するわけではないということに留意し、授業の中でICTを活用する場面と、活用しない場面を効果的に組み合わせることが重要だといえる。

(2) 国語科でのICTの活用について

学習指導要領では、国語科の指導の改善・充実を図る観点から、[思考力、判断力、表現力等]の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」の各領域において、学習過程を一層明確にし、各指導事項を位置付けた。文部科学省「国語科の指導におけるICT活用について(令和2年9月)」では、ICTの効果的な活用について、この学習過程を踏まえて考えられるICTの活用場面を示している(表4・表5)。



図1 学校におけるICTを活用した学習場面

文部科学省「教育の情報化に関する手引(追補版)」より

「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」の各領域において、学習過程を一層明確にし、各指導事項を位置付けた。文部科学省「国語科の指導におけるICT活用について(令和2年9月)」では、ICTの効果的な活用について、この学習過程を踏まえて考えられるICTの活用場面を示している(表4・表5)。

表4 国語科における「学習過程」とICT活用場面

国語科における「学習過程」とICTの活用場面			国語科の学習過程			考えられるICT活用場面					
新学習指導要領では、国語科の指導の改善・充実を図る観点から、[思考力、判断力、表現力等]の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」の各領域において、学習過程を一層明確にし、各指導事項を位置付けた。ICTの効果的な活用についても、この学習過程を踏まえて、活用場面を考えることができる。			※必ずしも一方、順序性のある流れではない。			※以下の各場面は、あくまで本資料として便宜上に挙げたものであり、特定の学習過程と紐づくものでも、画一的に捉えるべきものでもない。					
A話すこと・聞くこと			B書くこと			C読むこと					
<話すこと>	<聞くこと>	<話し合うこと>	題材の設定	情報の収集	内容の検討	構成の検討	精査・解釈	考えの形成	記述	推敲	共有
話題の設定	話題の設定	話題の設定	情報の収集	情報の収集	情報の収集	情報の収集	情報の収集	情報の収集	情報の収集	情報の収集	情報の収集
情報の収集	情報の収集	情報の収集	内容の検討	内容の検討	内容の検討	内容の検討	内容の検討	内容の検討	内容の検討	内容の検討	内容の検討
内容の検討	内容の検討	内容の検討	構成の検討	構成の検討	構成の検討	構成の検討	構成の検討	構成の検討	構成の検討	構成の検討	構成の検討
構成の検討	構成の検討	構成の検討	精査・解釈	精査・解釈	精査・解釈	精査・解釈	精査・解釈	精査・解釈	精査・解釈	精査・解釈	精査・解釈
精査・解釈	精査・解釈	精査・解釈	考えの形成	考えの形成	考えの形成	考えの形成	考えの形成	考えの形成	考えの形成	考えの形成	考えの形成
考えの形成	考えの形成	考えの形成	記述	記述	記述	記述	記述	記述	記述	記述	記述
記述	記述	記述	推敲	推敲	推敲	推敲	推敲	推敲	推敲	推敲	推敲
推敲	推敲	推敲	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有	共有
共有	共有	共有									

表5 場面に応じた国語科における

ICT活用のイメージ(例)

場面に応じた国語科におけるICT活用のイメージ(例)

※本イメージ(例)の分類は、便宜性のものであり、順序性を示すものではなく、各場面と一対一の関係で示す意図のものではない。

情報を収集して整理する場面

- インターネットを活用して学習課題に関連する情報を調べ、集めた情報を内容に応じて整理する。
- 収集した情報をフォルダに保存し、表計算ソフトなどを活用してデータベース化する。

自分の考えを深める場面

- 自分で考えたことを画面上の付箋に書き出し、その付箋を目的や意図に応じて分類する。
- プレゼンテーションソフト上でスライドを並べ替えるなどして、自分の伝えたいことがより明確に伝わるよう、目的や意図、相手に応じて用いる情報を取捨選択したり、話や文章の構成を考へたりする。
- デジタル教科書上で自分が重要だと考えた箇所に線を引く、友達と比較するなどして、考え直した場合に線を引直す。

考えたことを表現・共有する場面

- デジタルカメラやカメラ付端末を活用し、スピーチや話し合いの様子を録音・再生して自分の話し方を確認したり助言し合ったりする。
- プレゼンテーションソフトを活用して発表資料を作成する。

知識・技能の習得を図る場面

- 古文や漢文等の教材となる動画を視聴して、言葉の響きやリズムに親しむ。
- 書写の指導において、デジタル教科書等を活用して、点画の書き方への理解を深める。

学習の見通しをもったり、学習した内容を蓄積したりする場面

- モデルとなるスピーチの動画を視聴し、学習の見通しをもつ。
- 以降の学習における様々な学習活動において自分の必要に応じて適宜参照できるように、学習した内容を個人のフォルダに蓄積する。

「教育の情報化に関する手引(追補版)」(令和2年6月)では、学校種ごとに、ICTの効果的な活用の具体例を示しているため、参考していただきたい。(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyuohou/detail/mext_00117.html)

文部科学省「国語科の指導におけるICTの活用について」より

(3) 「書くこと」におけるICTの効果的な活用について

文部科学省「教育の情報化に関する手引(追補版)(令和2年6月)」には、「国語科で育成を目指す資質・能力を確実に身に付けさせるために、児童の実態等に応じて、コンピュータや大型掲示装置、情報通信ネットワーク等を活用する機会を設けることは重要である」とし、以下の5つのICT活用場面を示している。

- ①学習の見通しをもたせ、興味・関心を高める場面
- ②情報を収集・整理し、集めた情報を活用して自分の考えを形成する場面

「B書くこと」領域における「情報の収集」の学習過程などにおいて、設定した題材に関連する情報をインターネット等で検索したり、集めた材料を相手や目的、意図に応じて整理したりすることが考えられる。また、「B書くこと」領域における「内容の検討」、「構成の検討」、「考えの形成」の学習過程においても、インターネット等で検索して集められた情報から目的や意図、相手に応じて、用いる情報を選択し、自分の伝えたいことがより明確に伝わるように工夫することなどが考えられる。

③考えたことを表現する場面 「B書くこと」領域における「構成の検討」や「記述」、「推敲」の学習過程において、自分が感じたことや考えたことを書く際に、電子辞書の類語を検索できる機能等を活用して、自分が伝えたいことを端的に表現する言葉を探したり、推敲する際により適切な言葉を選んだりするなど、語彙を豊かにして表現力を高める学習へとつなげることが期待できる。また、「B書くこと」の指導においては、一旦文章を書いた後に構成の妥当性を検討するといった学習も有効である。その際、文章作成ソフトを活用することで児童に過重な負担をかけることなく、文章をよりよくするために段落ごとに入れ替えることなども可能となる。
④学びを共有する場面
⑤学習の内容を蓄積したり振り返ったりする面

文部科学省「教育の情報化に関する手引(追補版)」より(一部抜粋)

植田恭子(2022)は、「題材の設定」の段階での指導では、書く内容や題材を導く必要があり、思考ツールの活用が効果的であると提言している。「自己の内部にある混沌としているもの、カオスの状態にあるものを表出するサポート、水先案内をしてくれるのが『思考ツール』といえる」と述べている。題材の設定の段階で思考ツールを活用し、書くための材料を多く集め整理し、選ぶことは有効だと考える。「構成の検討」「考えの形成、記述」についても、植田(2022)は、「ICTを活用し、画面上で試行錯誤することで書く意欲の喚起へつながっていくのではないかと述べている。また、小林康宏(2022)も、タブレット端末等に入っている付箋の並べ替えで構成が手軽になることや、「助詞や助動詞などの修正にとどまらず、文と文、あるいは段落の入れ替え、途中の段落の中に一文を挿入するといったことを簡単に行うことができる」と述べている。しかし同時に、ICTを使う際の注意点として、子どもが実際に鉛筆を持ち、文字を書かないことだとし、「特に低学年の子どもたちにとっては、鉛筆で文字を書くことが正しい文字の書き方を覚えたり、筆順を覚えたり、整った文字をけるようになっていくためには必要なこと」だと述べている。本研究は、題材を設定する際、経験したことや想像したことなどを思い出す段階で、ツールとしてICTを活用すること、また、児童の発達段階を考慮して、鉛筆で書く活動と端末を活用する活動を計画的に単元に位置付けて進めていく。

4 個別最適な学びとは

「令和3年答申」では、「指導の個別化」と「学習の個性化」について以下のように示している。

指導の個別化：全ての子供に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するためには、教師が支援の必要な子供により重点的な指導を行うなどで効果的な指導を実現することや、子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行う(図2)。

学習の個性化：基礎的・基本的な知識・技能等や、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として、幼児期からの様々な場面を通じての体験活動から得た子供の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、探求において課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現等を行う等、教師が子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が学習が最適となるよう調整する(図3)。

以上の「指導の個別化」と「学習の個性化」を教師視点から整理した概念が「個に応じた指導」であり、この「個に応じた指導」を学習者視点から整理した概念が「個別最適な学び」である。また、「これまで以上に子供の成長やつまづき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや、子供が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことが求められる」と記している。これまでもワークシートを工夫する等の国語科における授業改善においても、「個に応じた指導」は行ってきた。しかし、画一的な手書きノートでの一斉指導や図書資料の不足等、個々の興味・関心や理解のしやすさを踏まえた指導が十分でなかった。そこで本研究は、個別最適な学びの視点も踏まえて研究を進めていく。

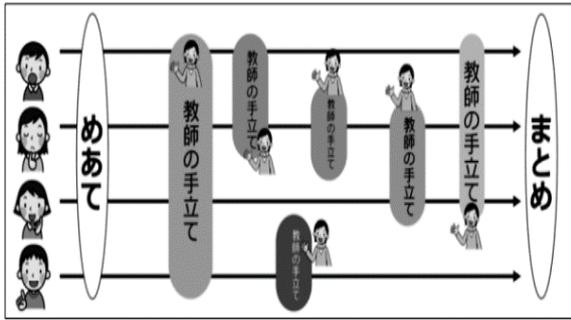


図2 「指導の個別化」を意識した学びのイメージ

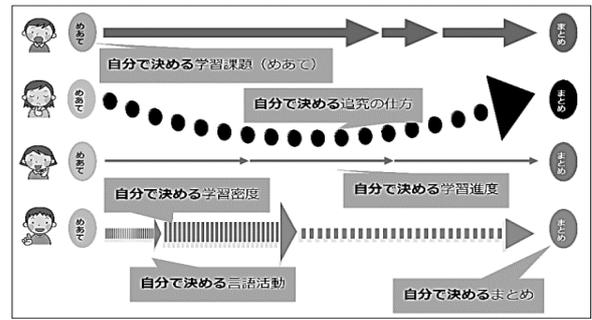


図3 「学習の個性化」を意識した児童生徒の学びのイメージ

中央教育審議会『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）より

5 語彙力を高める必要性

(1) 学習指導要領における語彙について

「解説国語編」において、「語彙指導の改善・充実」の中で、「語彙は、すべての教科等に資質・能力の育成や学習の基盤となる言語能力を支える重要な要素である」と語彙の重要性を示している。さらには、「語彙を豊かにすることは、自分の語彙を量と質の両面から充実させることである」とし、「語彙を豊かにするためには、語句の量を増すこと、語句のまとまりや関係、構成や変化について理解することの両面が必要である」として、その内容を学年別に示している(表6)。

表6 語彙の量を増すこと、語句のまとまりや関係、構成や変化について理解することについて

	第1学年及び 第2学年	第3学年及び 第4学年	第5学年及び 第6学年
語彙	オ 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉は意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにする。	ア 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。	ア 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。

「小学校学習指導要領解説 国語編」より

深谷圭助(2018)は、「ことばの力は、全ての学力の源となる」とし、「語彙力を身に付けるには、一つの言葉に対して、違った言葉で表現することが、語彙に対する理解を深め、使える言葉を増やす一番の近道となる」と述べている。「書くこと」はそのときに浮かんできた言葉の種類が豊富であればあるほど、様々な方向から物事を見つめ、考えを深めることができるため、語彙力を身に付けることはとても重要であるといえる。普段の授業や日常の会話から言葉を意識して意味を調べたり、違った言葉に言い換えたりすることが重要であると考えられる。

(2) 語彙と漢字指導について

平成16年文化審議会答申「これからの時代に求められる国語力について」において、「学校における国語科教育では『情緒力』『論理的思考力』『思考そのものを支えていく語彙力』の育成を重視していくことが必要である」と示している。また、「思考そのものを支える語彙力を身に付けるためには漢字の重要性を見直した上で、漢字の指導に力を入れていくという観点が大切である」とあり、語彙力を身に付けるためには、漢字指導も重要だということがいえる。出口汪(2014)は、子どもたちに与えたい力として「①一つ一つの漢字の意味を理解する力②文の中で漢字の使い方を理解する力③漢字の意味を考えてふさわしい言葉を選ぶ力④一つの漢字からさまざまな言葉を連想する力⑤正確に言葉をつなげて文を作る力⑥一文を正確に読み取る力」の6つを挙げている。そして、「漢字を単に覚えるのではなく、言葉として使えるようにすることが大事である」と述べている。漢字指導は、暗記するという単純な作業をさせるものではなく、漢字の意味や文章の中でその漢字がどんな言葉として働いているのかをきちんと指導することが重要だといえる。

6 アンケート（事前）の結果

児童の「書くこと」に対する捉えを把握し、研究に必要な資料を得ることを目的とした児童アンケートを実施した。

対 象：真喜良小学校3年1組 21名 調査日：令和6年1月上旬

【結果】

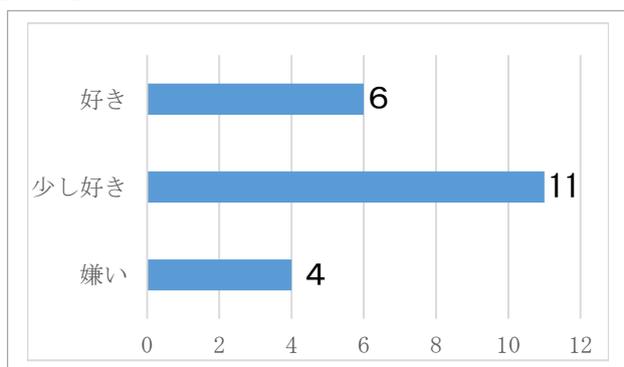


図4 ①書くことは好きですか。

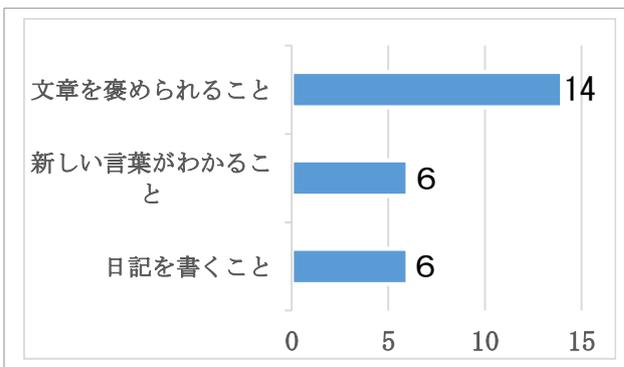


図5 ②「書くこと」について好きなことや楽しいことは何ですか。（複数回答可・上位3まで記載）

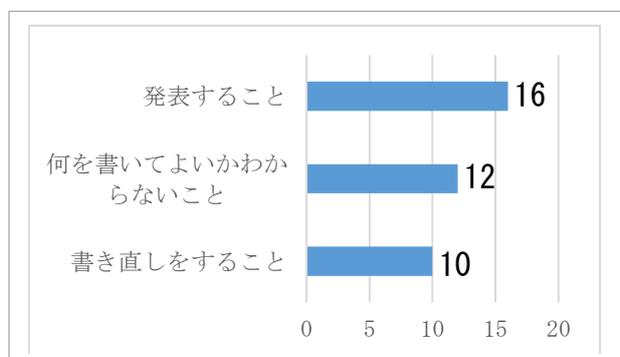


図6 ③「書くこと」について苦手なことは何ですか。（複数回答可・上位3まで記載）

- 自分の好きなものことなら書ける。
- 楽しいことを書く。
- 短い文章で書く。
- 鉛筆で書くのは苦手だけど、iPad を使ったらできる。
- 友達のを真似したら書ける。 など

図7 ④「書くこと」が苦手な人は、どうすれば好きになると思いますか。（記述式）

【考察】

①「自分の気持ちや考えを文章に書くことは好きですか」という項目(図4)では、17名の児童が「好き」「少し好き」と答えており、書くことに対して苦手意識を持っている児童はあまり多くないことが分かった。②「『書くこと』について好きなことや楽しいことは何ですか」という項目(図5)では、教師や友達からのコメントや、褒められることなどの理由が上位にあり、自分の書いた文章を認めてもらうことが児童にとって重要であることが推察される。③「『書くこと』について苦手なことは何ですか」という項目(図6)では、「何を書いていいかわからない」と答えた児童が多く、題材選びに課題があることが分かった。また、「書き直すこと」と答えた児童も多く、加筆や修正で何度も書き直すことに抵抗を感じていることが推察される。④「『書くこと』が苦手な人は、どうすれば好きになると思いますか」という項目(図7)では、「自分の好きなものことなら書ける」「楽しいことを書く」という答えが多く、題材を自分事として捉え「書きたい」という意欲を高めることが重要だと考える。

IV 授業実践

1 検証授業計画と評価計画

学習前	<p>一年間の思い出を振り返られるように、これまでの様子がわかる写真を個人で見しておく。</p> <p>学校生活だけでなく、家庭生活、習い事、地域行事のことなども思い出しておく。</p> <p>個人の思い出の写真や動画がある場合はタブレットに入れておく。</p> <p>【ICTの活用：写真や動画 Google ドライブ】</p>
-----	---

日時	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
1/23 (火)	1	○教材名や本文を読んで、一年間の生活の中で「強く心に残っていることを文章にする」という課題をもつ。 ○「学習の進め方」を読んで、学習のめあてをつかみ、見直しをもつ。	・単元のゴールを確認し、学年全体で、書いた文章を読む、保護者に配布するという相手や目的意識を持てるようにする。	[主体的に学習に取り組む態度①] <u>振り返りの記述・観察</u> ・「学習の進め方」を読んで、学習の見直しをもち、次時の目標を立てている。
1/24 (水)	2	○一年間を振り返り、思い出探しをする。 【ICTの活用：Google Classroom Google Jamboard】	・思い出を学校生活、家庭生活、地域行事、習い事、その他に分類できるようにする。	[主体的に学習に取り組む態度①] <u>Google Jamboard・観察</u> ・一年間を振り返り、進んで思い出探しをしている。
1/25 (木)	3	○前時で集めた思い出の中から、できごとを1つ選び、Google Jamboard を使って詳しく思い出す。 [題材の設定] ○その時の状況、会話なども一緒に思い出して Google Jamboard に入力し、中心場面について考える。 【ICTの活用：写真 Google Classroom・Google Jamboard】 [情報の収集・内容の検討]	・「嬉しかったこと」「頑張ったこと」「悲しかったこと」「悔しかったこと」など、思い出にもいろいろ気持や会話、様子などがあることを伝える。 ・「どんな気持ちだった?」「その時、だれが何と言った?」などを繰り返し聞く。 ・思い出することが難しい児童に、友達のを参考にするように伝える。	[主体的に学習に取り組む態度①] <u>Google Jamboard・観察</u> ・思い出の中から題材を設定し、進んで中心場面について考えている。
1/26 (金)	4	○中心場面が明確になるように、組み立て表を作る。 [構成の検討] ○できごと(時間の流れ)の部分が書けたら、その時の様子や気持ちをワークシート(組み立て表)に書く。	○組み立て表の横軸は「始め・中・終わり」、縦軸は「できごと(時間の流れ)・その時の気持ち」を確認させるようにする。 ・その時の様子や気持ちは、Google Jamboard をもとにしながらか、できるだけたくさん書くようにする。	[知識・技能①] <u>ワークシート(組み立て表)</u> ・様子や気持ちを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。
1/30 (火) 検証	5	○前時で作成した組み立て表を生かして、読み返しながら書く。 【ICTの活用：Word】 [考えの形成・記述]	・「中」の部分重視し、会話文や様子を表す言葉、その時の気持ち等を書いているか確認させるようにする。 ・下書きは、入力して書いてもいいことにし、自分の方法で書けるようにする。	[思考・技能・表現①] <u>原稿用紙(Word)</u> ・自分の考えや伝えたいことが明確になるよう、書き表し方を工夫している。

2/1 (木)	6	○前時と同じ。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までにどこまで進んだのかを確認させるようにする。 ・書き終わった児童は、自分の文章を写真に撮り、Google ドライブに入れておき、お互いの文章を読んでおくようにする。 	<p>[主体的に学習に取り組む態度①]</p> <p><u>原稿用紙 (Word)・観察</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・組み立て表を生かして、粘り強く読み返しながら文章を書こうとしている。
2/2 (金)	7	<p>○推敲の観点をはっきりと認識して文章を読み返し、書き直したり、書き加えたりする。</p> <p>○友達とお互いの下書きを読み合っ、よいところやさらに工夫できるところを伝え合う。</p> <p>【ICTの活用：写真 Google ドライブ】</p> <p>[推敲]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・推敲の観点は、書き方と内容の2つに分けて考えさせるようにする。 書き方→誤字脱字や文末表現等 内容→会話文や様子、その時の気持ち等 	<p>[思考・技能・表現②]</p> <p><u>原稿用紙・観察</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えている。
2/5 (月)	8	<p>○友達と読み合っ、感想を伝え合う。</p> <p>[共有]</p> <p>○学習を振り返って、どんな力が身に付き、これからどう生かすことができるか考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の良さだけでなく、「組み立て表から本文にどうつなげているか」などの学習過程についても評価させるようにする。 ・中心場面で工夫したことを交流させる。 	<p>[思考・技能・表現③]</p> <p><u>振り返りの記述・観察</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章の良いところを見付けている。

2 検証授業

対象：真喜良小学校3年1組 21名

(1) **単元名** 「つたえたいことの中心を明らかにして書こう」

教材名 「強く心にのこっていることを」

(2) **単元の目標**

身近な生活の中から自分に合った題材を見つけ、段落相互の関係を考えながら、中心になる場面をはっきりさせて文章を書く。

○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使っていると同時に、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。

【知識及び技能(1)オ】

○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。

【思考・判断・表現B(1)ウ】

○間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えることができる。

【思考・判断・表現B(1)エ】

○書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章の良いところを見付けることができる。

【思考・判断・表現B(1)オ】

○学習の見通しを持って、最後まで粘り強く書く活動に取り組み、振り返って次の目標を持つとうとする。

【学びに向かう力、人間性等】

(3) 単元について

①教材観

本単元は、一年間のできごとの中でいちばん心に残っていることを1つ選び、そのできごとの中心を明確にした文章を書く学習であり、3学年で学習した書くことのまとめとなる単元である。したがって、漠然とできごとを思い出して書くのではなく、伝えたいことの中心を明確にしたうえで、「取材」から「交流」までの書くことの一連の過程を意識しながら活動することが重要となる。そこで、学習計画表を作成し、学習のめあての確認と振り返りを書かせることで、書くことの一連の過程を意識させるようにしたい。教科書の児童文例は、日常生活から題材を選んだ作品である。飼っているカメが動かなくなった場面を中心に、会話文を交えて「ぼく」のその時の様子や気持ちが詳しく書かれている。児童が自分事として題材について考えられるよう、児童にとって身近な思い出の範囲を広げて選択・決定させ、教科書の児童文例を参考にしながら会話文、様子や気持ちを詳しく書いていけるよう指導していく。

②児童観

児童は本単元に入る前に、生活の中で発見したことを書く活動、図や資料を使って生き物の特徴を比べて書く活動、報告文や手紙を書く活動、心が動いたことを詩に書く活動を行ってきた。本単元は、3学年での書くことの最後の単元である。日頃の授業を観察していると、自分の気持ちや様子など書きたいことをすらすら書く児童は少数であり、多くの児童が時間内に書くことが出来ないでいる。「書くこと」に関する事前アンケートの結果を見ると、自分の気持ちや考えを書くことが苦手だと答えた児童は2割程度いることが分かった。またその理由として、何を書いていいか分からない、という答えが多かった。これらの現状を踏まえ、記述に入る前の過程でたくさんの題材の選択肢の中から自分が一番心に残っていることは何か、そのときの様子や気持ちはどうだったのかを、じっくり考え書き出し、文章を構成することで、意欲的に書く活動に取り組ませたい。

児童のICT活用については、2学期からGoogle Jamboardや、思考ツール等を授業や帰りの会で使っており、ローマ字表を見なくても入力できる児童がほとんどである。

③指導観

本単元は全8時間の時数で構成されており、5つの指導過程に分けられる。第1～3時までは、題材の設定・情報の収集・内容の検討の段階である。一年間の生活を振り返り、強く心に残っている題材を見つける。そのためにはまず、一年間を振り返る必要があるため、これまでの学校生活の写真を見せたり、書きためている日記を読み返させたりすることで思い出させる。Google Jamboardを活用し、友達の思い出も参考にすることで題材を選びやすくする。題材が決まったら、同じくGoogle Jamboardを使い、題材を中心にし、そこから「いつ」「どこで」「誰が」などのように5W1Hを思い出す観点にして、そのできごとをできるだけ詳しく思い出していく。そして、その中でもいちばん伝えたいことを決めて、中心場面とする。第4時は、構成の検討である。できごとがどんな順序で進んだかを思い出し、大きく3つの段落「始め」「中」「終わり」に分けて組み立て表を作っていく。そこではワークシート(組み立て表)にそれぞれの場面の様子や気持ちを整理していく。第5・6時は考えの形成・記述の段階である。前時までで作成した組み立て表の項目を膨らませながら下書きを書いていく。鉛筆で書いて仕上げるというゴールを確認にしたうえで、記述の過程は児童に選択させる。第7時は推敲、第8時は共有の段階である。推敲では、誤字脱字等の一般的な推敲だけでなく、友達との協働推敲も行う。推敲の観点をしっかり意識させることで、もっと良くなると思う点を伝えるように指導する。共有の場では、交流会を開き、お互いに読み合って良いところを見つけ合うなど、書いたことが生かせる場を設定したい。そうすることで、児童に「書いてよかった」「また書いてみたい」という前向きな気持ちを持たせたい。また、書いた文章をGoogle Classroomに載せておくことで、時間内に読むことができなかった文章にも触れることができるよう工夫する。

(4) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
①様子や行動を表す語句の量を増し、文章の中で使っていると同時に、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。 【(1)オ】	①「書くこと」において、自分の考えや伝えたいことが明確になるよう、書き表し方を工夫している。 【B(1)ウ】 ②「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えている。 【B(1)エ】 ③「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章の良いところを見付けている。 【B(1)オ】	①題材を設定し、進んで中心場面や構成について考え、学習の見通しを持って、粘り強く文章を書こうとしている。

(5) 本時の学習（5/8時間目）

①本時のねらい

組み立て表をもとに、中心場面が明確になった文章を書く。

②授業仮説

Word を活用するか原稿用紙に書くか児童に選択させ、組み立て表を常に振り返らせながら書かせることで、自分の考えや伝えたいことをはっきりさせて書くことができるであろう。

③本時の展開

過程	学習活動	評価方法（見取り方）（■） 及び教師の支援（☆）
導入 5分	1 前時の振り返りをする。 2 めあての提示と学習の流れを確認する。 組み立て表を生かして、読み返しながらかこう。	☆組み立て表を見て、様子や気持ちを表す語句があるか確認するようにする。
展開 35分	3 原稿用紙の使い方を確認する。 4 組み立て表を見ながら、文章を書く。 5 途中経過をペア同士で読み合ったり、友達にアドバイスに行ったりする。	☆机間指導で、原稿用紙の使い方や誤字脱字は声をかけて気付かせるようにする。 ☆一文書いたら読み返しながらかこうように伝える。 ☆書いているうちに、組み立て表と違ってくる場合は、組み立て表にあっても必要がなければ書く必要はないし、新たに書き加えたいことが出てくれば、書き加えるよう伝える。 ■[思考・技能・表現①] 自分の考えや伝えたいことが明確になるよう、書き表し方を工夫している。 (原稿用紙・Word)
終末 5分	6 振り返り ・組み立て表を見ながら文章に書くことができたか振り返る。	

V 研究の考察

1 研究仮説の検証

仮説 「書くこと」において、題材の設定に重点を置き、ICTを効果的に活用した一人一人の学習の進度に合った支援をすることによって、主体的に取り組む児童が育つであろう。

研究仮説に基づき、「学習意欲を高める題材の設定」と「ICTの効果的な活用」が、主体的に「書くこと」に取り組む児童の育成に有効であったかを検証授業の様子や児童のワークシート類、事前事後のアンケート等から行う。

(1) 学習意欲を高める題材の設定

① 相手や目的意識を持たせる授業の工夫

授業の1時目に、単元のゴールである「強く心に残っていることを文章にすること」や、「学年全体で読み合うこと」、「保護者に配布すること」を確認して、相手や目的意識を持たせるようにした。書いた文章はiPadで写真を撮り、Googleドライブに保存することで、学級だけでなく学年全体で文章を読み合うことができるようにした。ただ文章を書くのではなく、いつでも伝える相手や目的を意識させることで、自分が本当に伝えたいことは何かを考える児童の姿が見られた。

② Google Jamboard を活用した題材選びの工夫

これまで撮り溜めておいた学校生活での写真を共有ドライブに入れておき、児童がその写真を見て思い出を振り返られるようにすること、個人の思い出の写真や動画がある場合は、iPadに入れておくことを通して、一年間を詳しく思い出すことができた。2時目では、Google Jamboardを活用し、思い出をできる限り挙げ、分類・整理した(図8)。その際、同時に他者参照が出来ることで、自分ではあまり思い出せない児童も、友達のを真似ることで授業に積極的に参加することができた。3時目では、2時目で分類・整理した思い出をもとに題材を選び、中心場面について考えた(図9)。これまでの授業を振り返ると、題材を選択する際、悩んで時間内に決めることができなかつたり、書きたいことがいくつもあって決められなかつたりすることも多々あった。しかし、Google Jamboard でたくさんの思い出を挙げたこと、その時の出来事や様子、気持ちを思い出し書き出すことでスムーズに題材を選択し、決定することができていた。

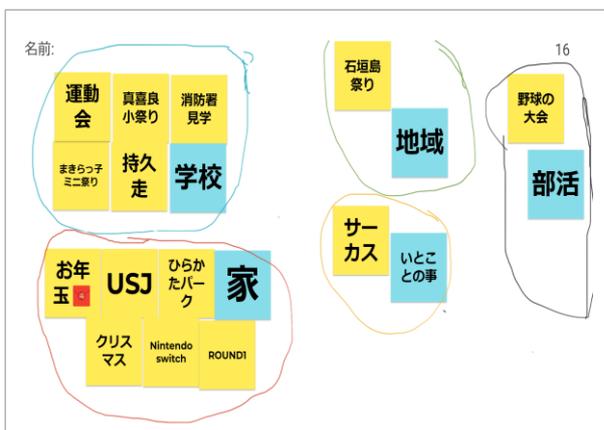


図8 2時目で使用した Google Jamboard

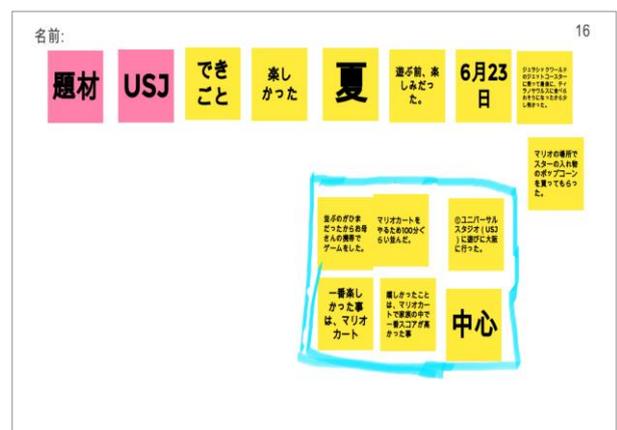


図9 3時目で使用した Google Jamboard

(2) ICTの効果的な活用について

① 題材の設定、情報の収集、内容の検討の学習過程におけるICTの活用

先に述べたように、題材選びの前段階で共有ドライブにある学校生活の様子の写真や、iPadに保存した個人的な思い出の写真を見ることで、一年間の思い出を振り返り、詳しく思い出すことができた。また、Google Jamboardは他者参照することができるので、普段授業に積極的でない児童が、友達のを真似ながら意欲的に思い出探しをする姿が見られた。

した。友達から褒めてもらってことで、自分の文章の良さに気付けた児童もいた。文章は学級だけでなく ICT を活用することにより、学年全体で共有し、他クラスの児童が書いた文章にも触れることができた。また、iPad を持ち帰り保護者の前で読むことで感想をもらうことができた。

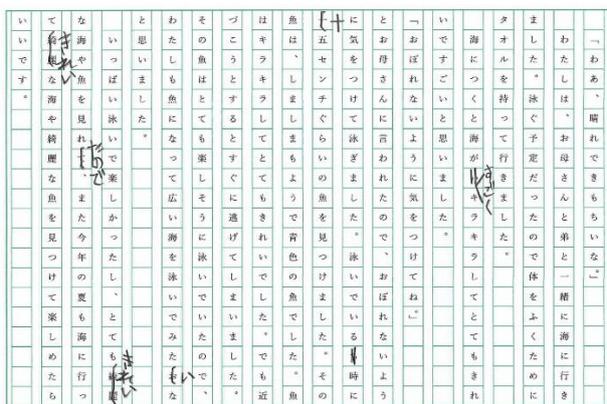


図 12 推敲した文章

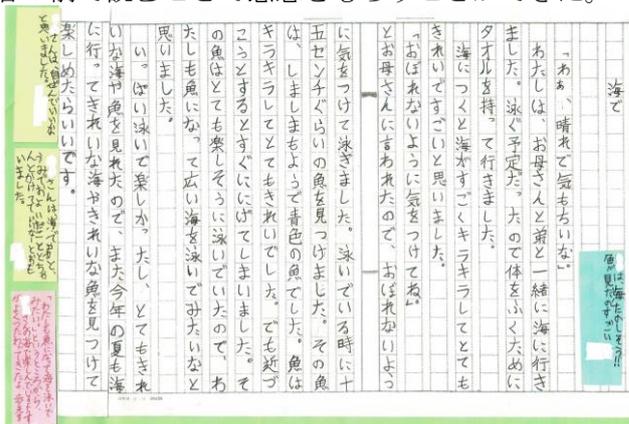


図 13 鉛筆での清書

④ 個別最適な学びにおける ICT の活用

本時の授業中、前時の授業を欠席した児童が、Google Jamboard を見ながら、自分のペースで題材を選び中心場面について考えている姿があった。また、授業時間内に課題を終えることができなかった児童が、休み時間に Google ドライブに保存してある友達の文章を読んで、感想を伝えている姿も見られた。Google Classroom に単元の毎時間の目標と学習の流れが記載されていること、書くことの題材設定の際に使用した Google Jamboard で他者参照できること、Google ドライブで下書きが保存されていること等、ICT を活用することにより、一人一人の学習の進度に合った学習の個性化が図られた。

(3) 主体的に「書くこと」に取り組む児童について

① 学習の見通しをもたせる工夫

主体的に「書くこと」に取り組むためには、学習の見通しをもつことがとても重要である。そこで、学習計画表を作成し、毎時間の目標の確認や振り返りを行った。振り返りは、今日の授業で分かったこと、できるようになったこと、難しかったこと等と、次の目標を書くように指導した。学習計画表を通して、見通しがもっている児童は次の目標についても書くことができていた。学習計画表は拡大して教室にも掲示することで、児童がいつでも確認できるようにした。児童からは、「先生、今日は〇〇が目標だよ。」「明日は〇〇をするよね。」等の声が聞こえ、見通しをもって学習を進めていることが推察された。

【児童の振り返り】

- ・わたしは、題材を「まきら小祭り」に決めて、中心場面は友達 4 人で屋台をまわったことにしました。次は、組み立て表を作りたいです。(3 時目)
- ・組み立て表を生かして、読み返しながらかいたので、ぼくが USJ に行った気持ちをみんなにつたえられたらいいと思います。(5 時目)
- ・今日は、自分の文しょうのいいところを、みんなの感想から見つけることができました。一番うれしかったのは、先生から花丸をもらったことです。(8 時目)

② 振り返りの交流

毎時間の振り返りを学習計画表に書かせた。振り返りは、授業の最後にペアで交流したり、代表児童に発表させたりして、共有を図った。振り返りの発表の際には、自分のものだけでなく、友達の振り返りの内容を発表させることで、友達の振り返りを傾聴するようになった。また、今日の授業内容に加えて次時の目標や学習内容に触れている等、振り返りがよく書けている児童のものを準備時間に書画カメラを使って紹介することで、他の児童が参考にできるようにした。そうすることで、今日の授業の学びや次の目標についてしっかり考えている様子が見られた。

(4) アンケート（事後）の結果

対 象：真喜良小学校3年1組 21名 調査日：令和6年2月上旬

【結果】

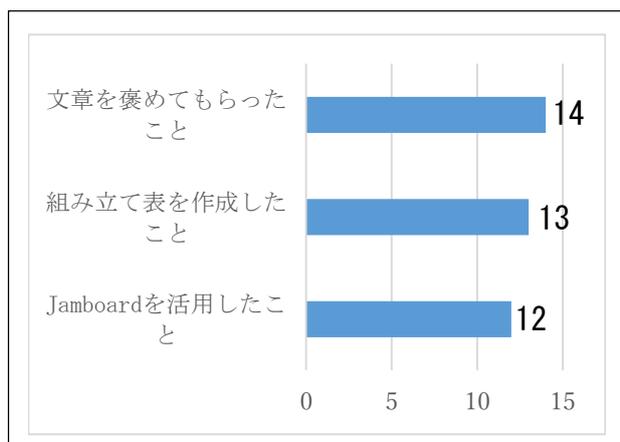


図 14 ①授業を通して好きになったことや嬉しかったこと(複数回答可・上位3まで記載)

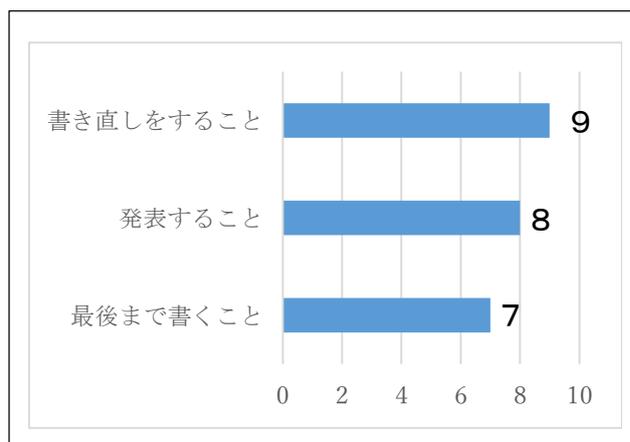


図 15 ②授業を通してまだ苦手だと感じること(複数回答可・上位3まで記載)

【考察】

①「授業を通して好きになったことや嬉しかったこと、楽しかったこと」の項目(図 14)では、「自分の文章を褒めてもらったこと」と答えた児童が多かった。書いた文章を認めてもらうことは児童にとってとても重要であることが分かる。そのため、書いた文章を読み合う共有の学習過程も重要だと考える。「Google Jamboard や Word を活用し、題材を選んだり、文章を書いたりしたこと」と答えた児童も多かった。ICTを活用したことは、特に「書くこと」に対して苦手意識が強い児童にとって効果的であった。②「授業を終えて、まだ苦手だと感じること」の項目(図 15)では、授業前と変わらず「書き直しをすること」と答えた児童が多かった。書き直しは、児童にとって抵抗感が強いことが分かった。今回、Word を活用して文章を書いたことで、何度も書き直す必要がなくなった。そのため、書き直しに対する抵抗感を軽減することができた。また、「書いた文章を発表すること」と答えた児童は、16人から8人に減った。題材を自分事として捉え楽しく書いたり、教師や先生に褒めてもらったりすることで自分の文章の良さを見つけ、自信につながったのではないかと考える。「見通しをもって学習を進めること」については、ほとんどの児童が、「見通しをもって進めることができた」と答えている(グラフ割愛)。このことから、学習意欲を高める題材の設定から推敲までにICTを活用したことが有効であり、児童が主体的に「書くこと」に取り組めたことが推察される。しかし、まだ「書くこと」に対して苦手意識を持っている児童がいるため、どのような手立てを用いて改善を図っていくのかを研究する必要がある。

VI 研究の成果と課題

1 成果

- (1) Google Jamboard を活用し、他者参照しながら題材を選択したことで、「書きたい」という意欲を高めることができた。
- (2) 組み立て表をもとに Word を活用して下書きを作成したことで、何度も書き直す必要がなくなり、児童の苦手意識を下げることができた。
- (3) 全員の文章を Google ドライブに保存し、学年全体でお互いの文章を共有することで、より多くの友達と交流することが可能になり、友達や自分の文章の良さを見つけることができた。
- (4) 学習計画表を作成し、掲示したり振り返りを書かせたりすることで、学習の見通しをもって主体的に「書くこと」に取り組む児童が増えつつある。

2 課題

- (1) ICTを効果的に使った授業プランの工夫
- (2) 様子や気持ちを表す語彙を増やす指導の工夫
- (3) 「書くこと」が苦手と感じている児童への手立て

《参考文献》

小学校学習指導要領(平成29年告示) 文部科学省

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 「国語編」 文部科学省

国立教育研究所 教育課程研究センター 2020

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料【小学校 国語】 東洋館出版社

花田修一 1999 『「書くこと」の授業改革—情報化対応の作文技術—』 明治図書出版株式会社

小林康弘 2022 『「書くこと」の授業づくり パーフェクトガイド』 明治図書出版株式会社

櫻井茂雄 2017 『自律的な学習意欲の心理学—自ら学ぶことは、こんなに素晴らしい』 株式会社 誠信書房

水戸部修治 2018 『小学校 新学習指導要領 国語の授業づくり』 明治図書出版株式会社

植田恭子 2022 『小学校・中学校国語科 ICT×書くこと指導コンプリートガイド』 明治図書出版株式会社

深谷圭助 2018 『小学校6年生までに必要な語彙力が1冊でしっかり身につく本』 株式会社かんき出版

出口汪 2014 『出口先生の頭がよくなるかん字 小学1年生』 株式会社 水王舎

《参考URL》

○中央教育審議会 2021

『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協同的な学びの実現～(答申)』

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00002.htm

○文化審議会 2004

『これからの時代に求められる国語力について』

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/bunka/toushin/04020301/015.pdf

○国立教育政策研究所 2020

『主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について』

https://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/pdf_seika/r02/r020603-01.pdf

○中央教育審議会 2003

『初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について』

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/f_03100701.htm

○文部科学省 2020

『教育の情報化に関する手引(追補版)』

https://www.mext.go.jp/content/20200707-mxt_jogai01-000003284_011.pdf

○文部科学省 2020

『国語科の指導におけるICT活用について』

https://www.mext.go.jp/content/20200911-mxt_jogai01-000009772_01.pdf